

FAO / WHO 合同食品規格計画

第 16 回アジア地域調整部会

日時： 2008 年 11 月 17 日（月）～11 月 21 日（金）

場所： デンパサール（インドネシア）

議題

1.	議題の採択
2.	コーデックス総会及びその他の部会からの付託事項
3.	ステップ 7 での規格案の検討
a)	コチュジャンの地域規格案
b)	朝鮮人参の地域規格案
4.	ステップ 4 での規格原案の検討
a)	発酵大豆ペーストの規格原案 －セクション 3.2（品質要件）に関する電子作業部会の報告－
b)	非発酵大豆食品の規格原案 －非発酵大豆食品に関する電子作業部会の報告－
c)	チリソースの地域規格原案
d)	さご椰子粉の地域規格原案
5.	コーデックス委員会の作業を補完する FAO/WHO の活動について －アジア地域における STDF プログラムの活動－
6.	アジア地域調整部会の戦略計画案
7.	各国の食品管理システム及び食品規格策定における消費者の参画に関する情報
8.	各国及び地域レベルにおけるコーデックス規格及び関連文書の使用に関する情報
9.	アジア地域における栄養問題
10.	地域調整国の指名
11.	その他の事項及び今後の作業
12.	次回会合の日程及び開催地
13.	報告書の採択

第 16 回アジア地域調整部会 (CCASIA) 概要

1. 開催日及び開催場所

日時：2008 年 11 月 15 日 (月) ～11 月 21 日 (金)

場所：デンパサール (インドネシア)

2. 参加国及び国際機関

19 加盟国 (105 名)、4 オブザーバー国、4 国際機関等 (参加者総数 119 名)

3. 我が国からの出席者

農林水産省	消費・安全局国際基準課長	小川 良介
厚生労働省	医薬食品局食品安全部規格情報課国際食品室 国際調整専門官	福島 和子
農林水産省	消費・安全局国際基準課 課長補佐	小出 純
農林水産省	総合食料局食品産業振興課 課長補佐	渡辺 裕子
農林水産省	生産局生産流通振興課流通加工対策室 国際調整係長	佐野 文昭
農林水産省	消費・安全局国際基準課 調査分析係長	吉尾 綾子

テクニカルアドバイザー

全国味噌工業協同組合連合会	常務理事	小畑 圭秀
---------------	------	-------

今次会合では、検討の対象となっていた 6 つの個別食品に係る地域規格のうち、非発酵大豆製品 (とうふ類) 及びチリソースを除く 4 つの地域規格について、ステップを進め第 32 回総会に提出することで合意された。

- ・ ステップ 8 : コチュジャン、朝鮮人参
- ・ ステップ 5/8 : 発酵大豆ペースト (みそ)
- ・ ステップ 5 : さご椰子粉

一方、新たな規格作成作業 (テンペ及びテンペ関連製品) については、提案はなされたものの内容に係る議論はなされず、次回会合で検討することとされた。

さらに、次回会合から、

- ① 「アジア地域調整部会の戦略計画」 (今次会合で合意) の進捗状況について報告すること、
- ② 「地域に関連する事項」 (新設の議題) において、メンバー国の関心事項を議論すること

で合意された。

主要議題の検討内容

議題 3 ステップ 7 での規格案の検討

3a) コチュジャンの地域規格案（新規作業採択：2004 年）

3b) 朝鮮人参の地域規格案（新規作業採択：2004 年）

- ・コチュジャンについては、定義において製品の腐敗を防ぐ工程を明示した条項を追加するほか、カプサイシンの分析法について整理し、更なる妥当性確認を行った上で、改めて分析・サンプリング法部会の承認を求めること
- ・朝鮮人参については、定義において、健康強調表示がなされる際には「栄養及び健康強調表示のガイドライン」に則り表示すべきことを注釈として追記すること

等が議論され、いずれもステップ 8 として総会に提出されることで合意された。

なお、最終採択の後に国際規格に転換すべきといった提案はなされなかった。

議題 4 ステップ 4 での規格原案の検討

4a) 発酵大豆ペーストの規格原案（新規作業採択：2004 年）

任意原料としての酵母及び酵母抽出物の追加、品質要件のアミノ酸含量、いくつかの食品添加物の追加について議論がなされ、我が国の主張は反映された。また、コチュジャンと同様に、定義において製品の腐敗を防ぐ工程を明示した条項を追加することが合意された。当該規格原案はステップ 5/8 として総会に提出することで合意された。

4b) 非発酵大豆製品の規格原案（新規作業採択：2005 年）

本議題については、前回会合において、中国がタイの協力を得つつ電子作業部会にて原案を作成することとされていたが、部会直前まで資料の配布がなされなかった。

このため、事務局より、本議題については今次会合においては議論せず、原案作成の段階から検討しなおすことが提案された。我が国をはじめ、フィリピン、マレーシア及びタイ等がこれを支持したことから、本作業はステップ 2 に戻し、中国を中心とする電子作業部会において規格原案を作成することとされた。

4c) チリソースの地域規格原案（新規作業採択：2007 年）

トマトベースの製品が当該チリソースの規格に含まれるか明確ではなかったこと、また、生鮮果実・野菜部会において“Chili Pepper”の規格を作成することから、名称を“Chili Pepper Sauce”に変更する提案をしていたが、

- ① チリベースの製品を“Chili Pepper Sauce”と名称することに對し各国の理解が得られなかったこと、

② トマトベースの製品についても、表示の条項においてその旨の明記することを可能としていること

から、チリソースとすることとされた。

また、定義において可溶性成分及び pH の値を、品質要件として辛さの程度を規定することが提案されたが、製品が多様であるため難しいことが確認された。当該規格原案はステップ 2 に戻し、タイを中心とする電子作業部会において原案を作成することとされた。

4 d) さご椰子粉の地域規格原案（新規作業採択：2007 年）

今回配布された地域規格原案の対象に、よりでん粉含量の高い「さごでん粉」が含まれないことが確認された。

当該規格原案は、対象、品質要件、分析法に修正を加えた上で、ステップ 5 として第 32 回総会に提出することで合意された。

議題6 アジア地域調整部会の戦略計画案

部会は、コーデックス委員会の戦略計画に即し、コーデックス委員会におけるアジア地域調整部会の有効性と当該地域の貢献力の強化を図るため、各国の食品関連制度の強化や当該地域調整部会メンバー間の情報共有の促進等を目標とする、2009年から2014年までのアジア地域調整部会の戦略計画を採択した。

当該計画の採択については第32回総会に報告し、計画の進捗状況については次回会合以降、地域調整国より報告することとされた。

議題10 地域調整国の指名

第 32 回総会において指名される次期アジア地域調整国について、引き続きインドネシアを推薦することで合意された。

議題11 その他の事項及び今後の作業

インドネシアより、テンペ及びテンペ関連製品の規格について、議場配布資料に基づき新規作業提案がなされた。これに対し、我が国より、

- ① 新規作業提案については、十分前もって文書を配布すべきであること
- ② 第 31 回総会において採択された「作業の優先順位付けのための規準の適用に関するガイドライン」を踏まえ、「作業の優先順位付けのための規準」に照らして根拠に基づく評価が行われるよう、十分な関連情報を整理すべきであること

を指摘した。

当該新規作業提案については、次回会合において検討するため、インドネシアが詳細な情報を含めたプロジェクトドキュメントを作成することとされた。

(参考)

アジア地域調整部会 (CCASIA) の作業と今後のアクション

事項	ステップ	今後のアクション
コチュジャンの地域規格案	8	・ 第 32 回総会
朝鮮人参の地域規格案	8	・ 第 32 回総会
発酵大豆ペーストの地域規格原案	5/8	・ 第 32 回総会
さご椰子粉の地域規格原案	5	・ 第 32 回総会 ・ 第 17 回 CCASIA
非発酵大豆製品の地域規格原案	2/3	・ 電子作業部会[座長：中国] ・ 第 17 回 CCASIA
チリソースの地域規格原案	2/3	・ 電子作業部会[座長：タイ] ・ 第 17 回 CCASIA
アジア地域調整部会の戦略計画 (2009-1014) の実施状況	—	・ 第 17 回 CCASIA
テンペ及びテンペ製品に関する討議文書	—	・ インドネシア